

第2回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2012年7月13日（金）午前9時半～12時

場 所：明治安田生命ビル 第1会議室（2階）

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室

〔事務局〕一般社団法人 CAT

1. 今年度以降のかわさきコンパクト事業のあり方について

庄司委員長の進行のもと、これまでのかわさきコンパクトの経緯・成果を振り返り、現状分析及び今後の方向性・取り組みの検討を行った。

議論は以下の通り。

【経緯と振り返り】

2003 秋、UNEP 環境と金融→川崎市との接点が出来た

→川崎市と接点が出来た。国家の集まりである国連と「自治体」の関係性は稀

川崎市は国際企業が多く、在留外国人も5万人規模

□成果・達成点

世界で唯一自治体として参加していることの価値

臨海部・市民団体への第一歩の巻き込みはよかった

地球温暖化防止活動推進センターとの接点により活発化できた

□改善点

市としての明確な方向性が見えないため、NPO への誘いかけが出来ない

他の取り組みに埋もれてしまっている

活用がうまくできていない

中小ものづくりの企業の巻き込みはできていない

企業・NPO 共にメリットが見えないという声

地域色が強くなった一方、国際色は薄れた気がする

市民コンパクトが「付け足し」感がある

現状で施策の中で理念が十分反映されているか、否か

行政として GC 原則から外れていることはないが、常に意識できているかは見直しが必要

【施策・方向性での論点整理】

■市・企業・NPO というセクターの中で、「市」が役割として何を担うか

企業・団体を考えた時に環境を中心で行くのか、環境は入口で広げていくのか

■①GCの活動（原則）を、どう市内で展開するのか

②GCの理念に沿った、市として独自の取り組み、という2つの方向性

■かわさきコンパクトの位置づけのあり方

A：CCかわさきなど他の事業と同じラインナップの1つとして（横並び）

B：KCがベースとなり、各事業がその理念を派生的に活かすあり方（基盤）
のいずれで行くか。

【認知・知名度の現状分析】

かわさきコンパクトの認知がまだ低い…行政としてのPR不足

他部局への認知、行政職員へのPRが不足している

→まずは職員全体がコンパクトが当たり前、ということ自体を認識する。

そのために、担当の室から環境局全体へ、その後他部局へと広げる取り組みが必要

【市民に向けたアピール戦略】

地球温暖化防止活動推進センターと共催したのと近い形で、国際交流センターとも何かできないか

CCのメンバーが共催で目を向けてくれたという成果があり、逆に国際交流センターでイベントを開催することで、相互の活性化、アピールにつながる（姉妹都市、友好都市などの活用も変化球的ではあるが考えられる）

メディア露出、地域の新聞・ミニコミ誌への発信

【今後に向けて】

元となるグローバル・コンパクトの理念・原点の確認を。「世界」の視点のGCを地域に受け入れやすくするためにどうするか。

コンパクトとしての政策提言も、設計に盛り込まれていることを再認識したい
川崎市として、何を大切にするか、どんなまちか——市民・企業に来てもらえる施策として、それを考える道具としてのコンパクト

川崎市がどういう戦略でいくのか。「環境問題の克服」「交通の利便性」「10年で10万人人口増」という実績を元に。北九州・横浜との競争力に。

3.11 震災時の投資家の移動に見られるように、今後、国際的な移動が更に起こる想定を認識し、コンパクトで職員の意識改革を進める。

過去には、外国人代表者会議によって実現された施策もある→理解者の増加につながった成果。市民活動面でも同様に環境でもコンパクトでつなげていければ

GCは行動指針であるため、振り返りにも使える。例えば、行政サービスの評価指針、事後チェックにも使える。市民・企業のニーズに合っているか。市役所が社会から取り残されないための道具立てとして。

自社企業の取り組みの評価、国際的価値観をコンパクトで確認できる

【具体的な取り組み】

メディア露出を高める（記者を捕まえる→委員会メンバー間でも連携・紹介する）

メディアへの露出によるメリットを活かす。例えば、CSR の表彰など

国際貢献を企業と市民で協力・実現する場として活用

川崎に住んで市内で働く外国人の声を聞く（ネットワークとして代表者会議に協力依頼）

外資系企業の話を知る（過去にギャラリー・自社製品の提供などの事例あり）

市役所内への意識浸透、教育現場への入り込み

CC かわさき団体へのアピールによる広がり

KC 参加企業・団体への活用の促し、特に KC の各団体担当者「以外」へのアピール

以上の論点に対し、委員から市としての施策の方向性の提示に期待することと、来年度からの取り組みに具体的な意見を反映させたいことの確認をもって、閉会した。